

社会科学の基礎B	教 授 丸山高行
----------	----------

1. 授業のねらい・概要

本講義では、極めて広い学問領域である「社会科学」について、エッセンスを効率よく学ぶことを目標とする。また、単なる試験対策の知識吸収にとどまらず、これから学生諸君が立派な社会人として活躍するための基礎固めができることを目指す。「社会科学の基礎B」では、経済・社会領域を扱う。

2. 授業の進め方

基本的には、参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。

3. 授業計画

1. イントロダクション： この科目の講義内容、進め方や評価方法 2. ミクロ経済学の基礎(1)： 需要曲線と供給曲線、消費者と生産者の行動 3. ミクロ経済学の基礎(2)： 市場均衡分析と経済厚生 4. マクロ経済学の基礎(1)： 国民所得の決定と経済・貿易政策 5. マクロ経済学の基礎(2)： 金融政策の基本、インフレ・デフレ対策 6. 財政学の基礎(1)： 財政の機能と役割、日本の租税制度 7. 財政学の基礎(2)： 国家財政と地方財政の関係、課題と展望	8. 経済事情(1)： 経済史概説、世界の通貨と貿易体制 9. 経済事情(2)： 経済事情に関する様々なトピックス・用語解説 10. 社会政策の基礎(1)： 社会学の歴史と理論、心理学の基礎 11. 社会政策の基礎(2)： 社会政策と現在の社会問題 12. 現代社会事情と時事問題(1)： 労働および社会保障に関する時事問題 13. 現代社会事情と時事問題(2)： 科学および文化に関する時事問題 14. 現代社会事情と時事問題(3)： 環境および社会貢献に関する時事問題 15. 全体のまとめ： これまでに学んだことの整理、今後の課題の提示
---	---

4. 到達目標

社会科学のうち経済・社会関係の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実社会の様々な時事問題にも適宜触れるので、経済学や社会学との関連性を考えながら、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

随所でケース・スタディを提示するので、予習として、問題点の整理や解決方法の模索を行ってほしい。また、授業後は、参考文献・ノート等に基づき復習して、自分なりに講義内容を体系立てて身につけておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

100点満点の評価を、次の3つの要素に分ける。①授業に対する受講姿勢（20点）、②随所で提示されるケース・スタディについて課されるレポートの内容（20点）、③期末試験の成績（60点）。

7. テキスト・参考文献

参考文献として、倉澤資成『入門・価格理論』日本評論社をあげておく。

また、授業の都度、適宜関連資料を配布する。

8. 受講上の留意事項

履修状況を見て、上記授業計画の一部を変更することもありうる。

また、理解度を見て、適切な参考文献を随時紹介する。